

# 自治医科大学症例 2

2007 5/12 那須IVR研究会

## 症例 28歳女性

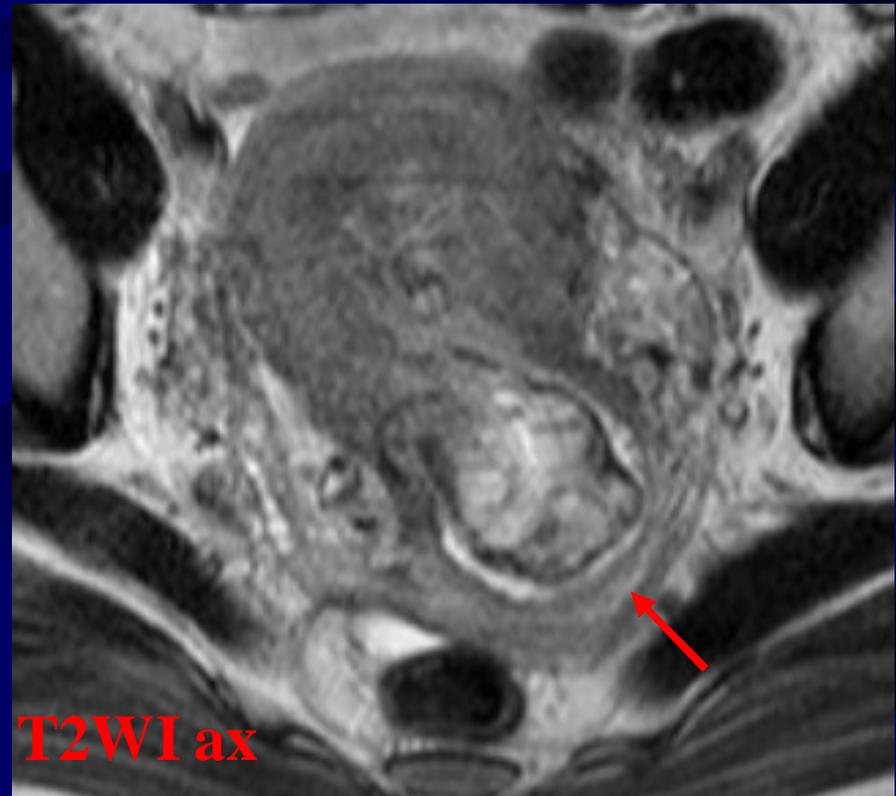
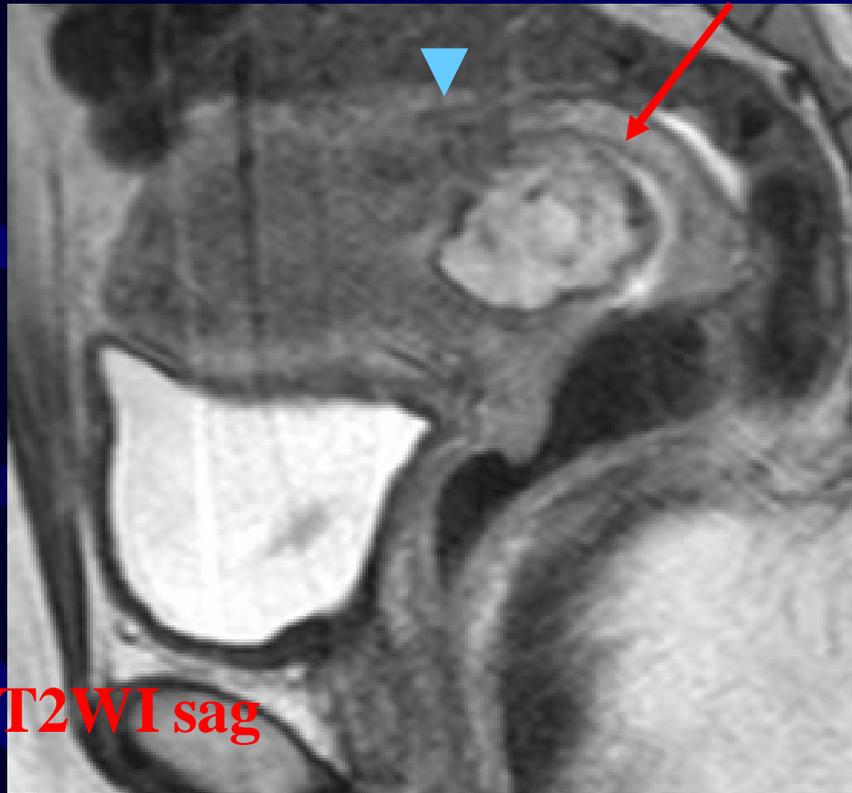
主訴：遺残胎盤、癒着胎盤

現病歴：H18 8/5 他院にて経膈分娩。分娩後弛緩出血にて当院へ母体搬送された。

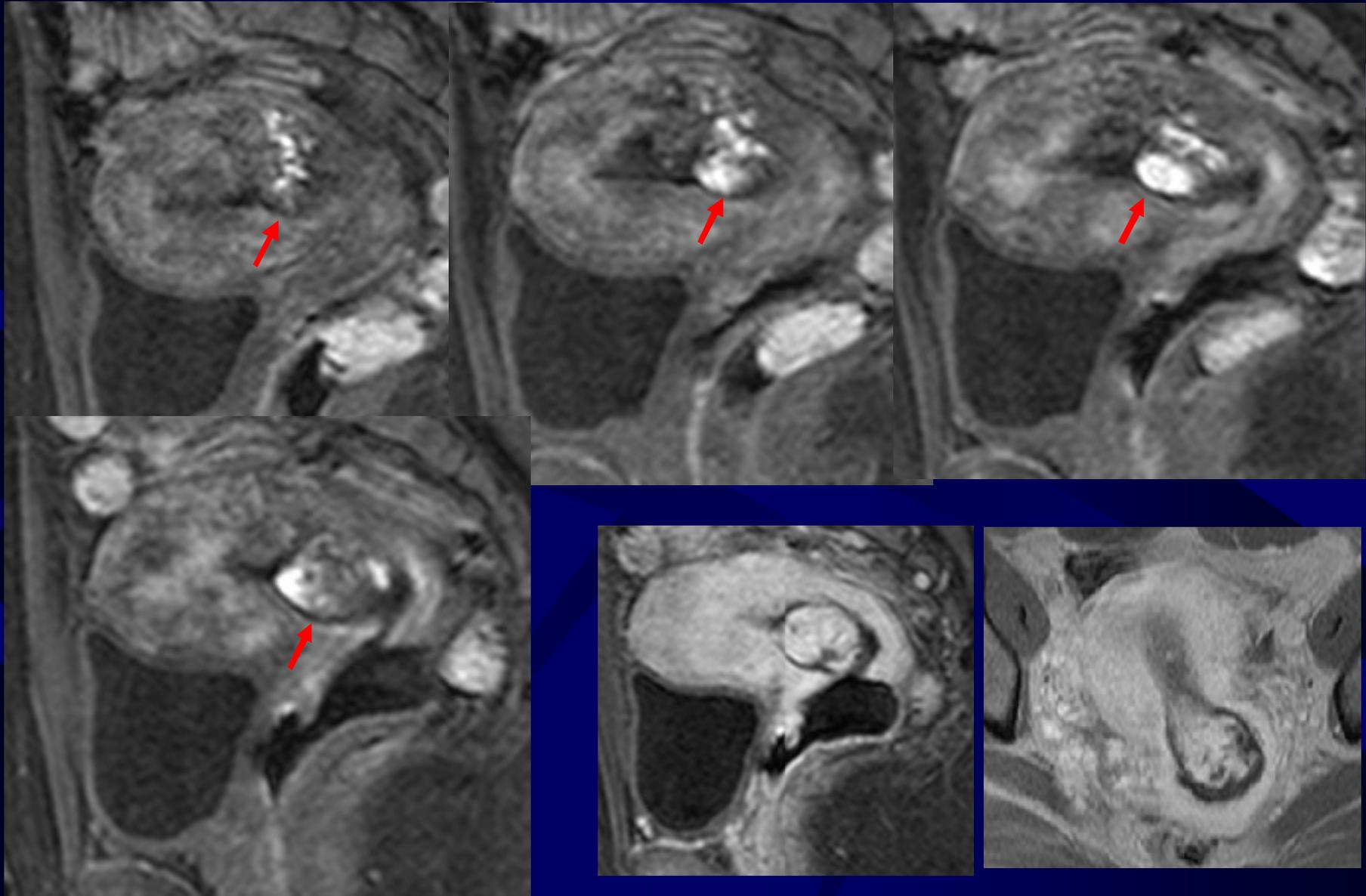
その後当院にて輸血、子宮収縮剤にて一時的には止血されたものの、8/26から再度出血あり。MRIにて遺残胎盤、癒着胎盤と診断。ダイナミックMRI, ドップラー超音波にて胎盤への血流がみられた。

MTX療法行ったが、効果はみられなかった。

# 骨盤部MRI



# 骨盤部 dynamic MRI

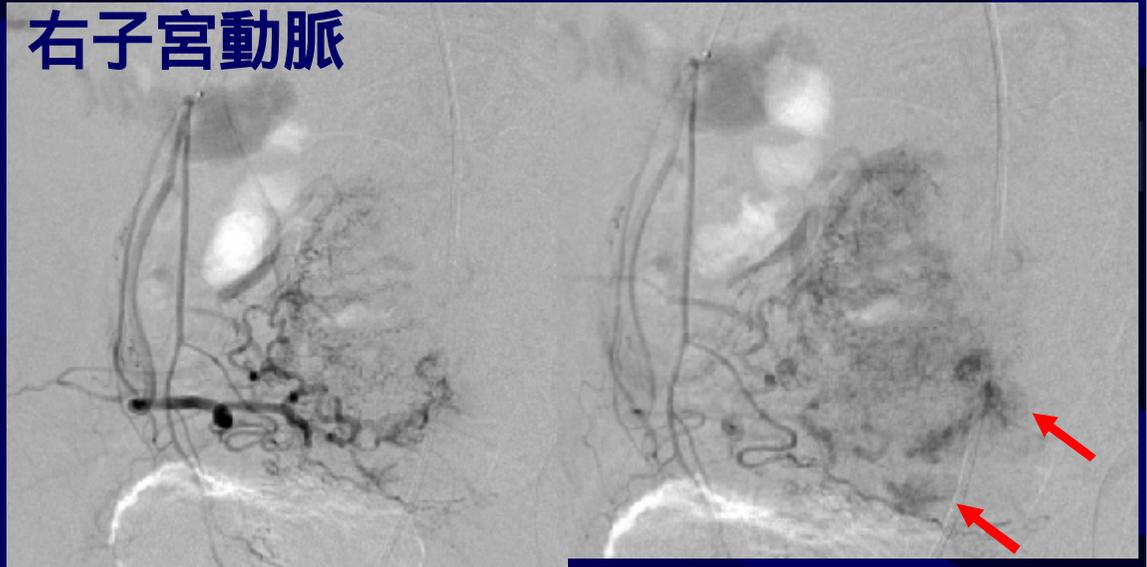


# 血管造影

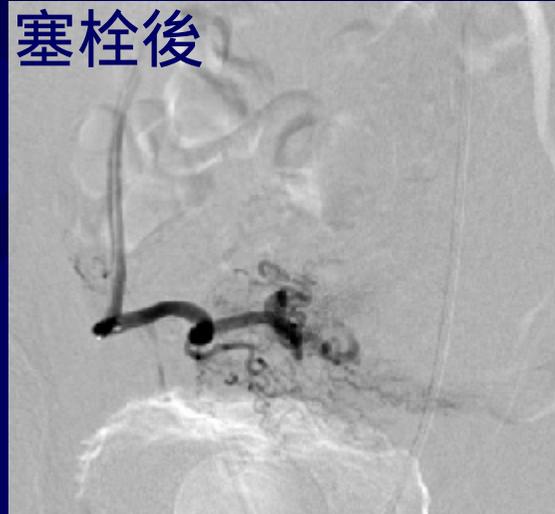
右内腸骨動脈



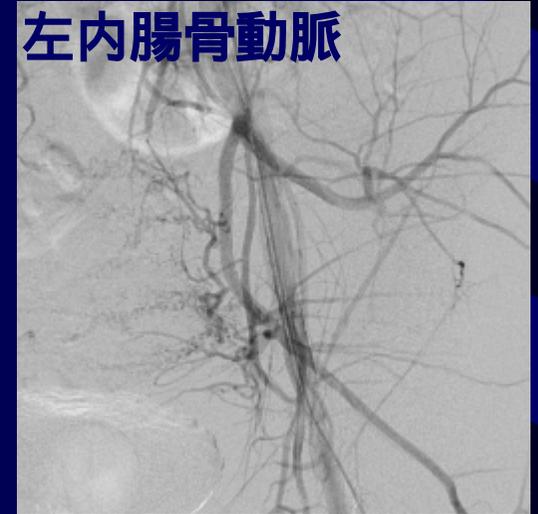
右子宮動脈



塞栓後



左内腸骨動脈



## 治療経過

TAE翌日、9/22(産褥48日)に胎盤剥離術施行。  
術直前の超音波では胎盤に明らかな血流なし。  
虚血により壊死した胎盤を軽い力で除去可能であった。

9/27退院。

その後再出血なし。

## 考察

- ・ 遺残胎盤の多くは子宮筋層と強固に癒着しており、豊富な血流を有し性器出血の原因となる。
- ・ 状態が安定していれば、MTX療法が取られることが多いが、本症例のように無効例や緊急処置が必要な大量出血を来たす場合は、子宮動脈塞栓術が有用となることが多い。
- ・ ただし子宮動脈塞栓術のみで経過観察された症例で、再出血を来たした報告もあり、塞栓後の胎盤剥離術等の処置は必要と思われる。

# 質疑応答

## 初産後の遺残胎盤、癒着胎盤による子宮出血症例

- ・MTX効果なく、術前UAEを依頼された。  
子宮動脈をゼラチンスポンジで塞栓した。  
翌日、胎盤剥離術が施行された。
- ・最近では頸管妊娠に対してMTX動注による自然流産治療がある。
  - ・ 子宮温存できるので婦人科に宣伝しておいた方がいい
  - ・ UAEは産婦人科学会の反対により認められていない